学校歯科保健通信　VOL. 7

なぜ、小・中学校で「フッ化物洗口」なのでしょう？

令和５年度の県の事業のひとつとして「小・中学校でのフッ化物洗口」がモデルケースとして県内の１０の小学校で開始されました。（敦賀市の３小学校は令和４年度よりすでに開始済み）
では、なぜ小・中学校で「フッ化物洗口」なのでしょう？

６歳前後で下顎の前歯が生え変わるのをスタートとして、中学校までの間に順にすべての乳歯が永久歯に生え変わります。萌出したばかりの永久歯は歯質が弱く、この萌出したばかりの永久歯に低濃度の「フッ化物洗口」を週に一回実施するだけで歯質が強化されていくのです。

日本で初めて小学校で集団的にフッ化物洗口を始めたのは新潟県の弥彦村です。1970年のことです。それから50年が経過しましたが、大きな事故等の報告はありません。当時フッ化物洗口を受けた人たちは今５０～６０歳になっていますが、この人たちはフッ化物洗口を実施していない地域の人たちよりむし歯が少ないことが明らかになりました。小学校でフッ化物洗口を実施した場合「子どものむし歯予防」だけでなく、「成人のむし歯予防」にもつながるのです。

では、全国的にどれくらいの子どもがフッ化物洗口を受けているのでしょうか？

2018年では、14,359の施設で1,573,535名の子どもが受けているのです。2003年に厚労省から「フッ化物洗口ガイドライン」が発出されて以降その人数は急激に増えており、特にこの数年は「前年比20%増」なのです。

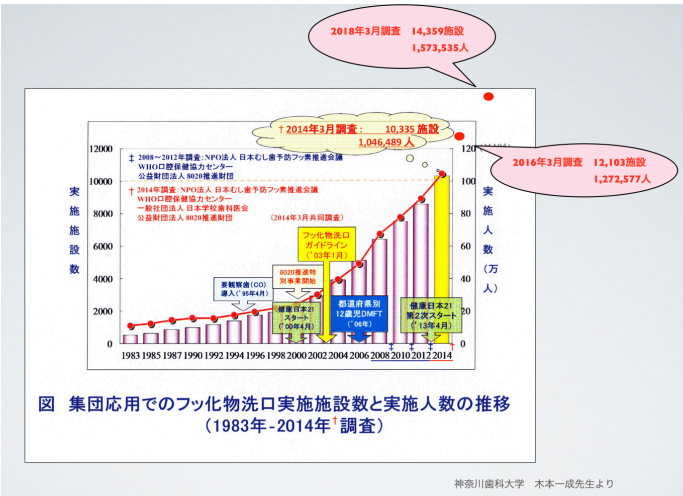

図　集団応用でのフッ化物洗口実施施設数と実施人数の推移
（1983年-2014年†調査）
神奈川歯科大学　木本一成先生より

従来、フッ化物洗口を実施しようとすると「粉末を希釈する」という手間がかかっていましたが、今回のモデル事業では「個装してあるポーションタイプ」もしくは「希釈済みのボトルタイプ」を使用し「希釈」という煩わしさが解消されています。

福井県歯科医師会では県と協働してフッ化物洗口が円滑に実施できるように動画とパンフレットを作成しました。フッ化物洗口の理解を深めるためにどうぞ一度ごらんください。

福井県歯科医師会　http://fda.or.jp/school/

ぜひ「人生100年時代を迎える今の子どもが一生自分の歯で食べることができる」ために次年度からは貴校でもフッ化物洗口を実施しましょう！